

<新刊紹介>

「移動観測法を用いた都市気温分布調査」

—高知県中央部の都市を中心として—

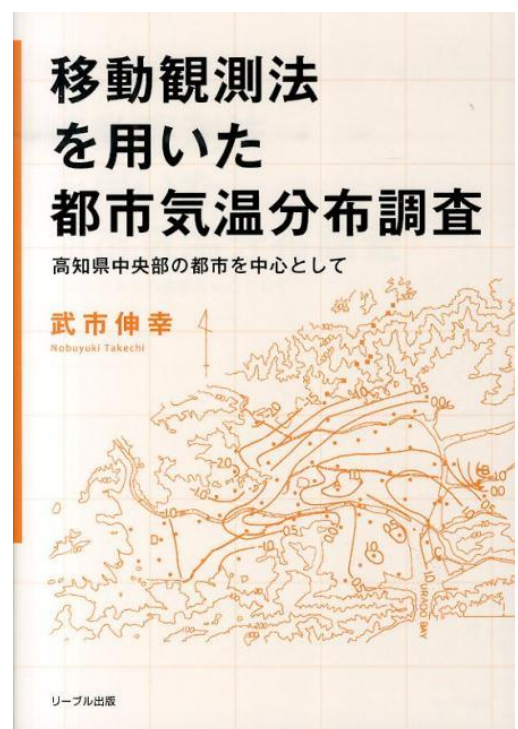
武市 伸幸 著

最初に著者は出版の背景と意義について以下のように前書きしている。

都市気温分布は都市の気候環境を知る基礎になるデータだと思います。また、気温分布は大気汚染と関係してきます。東京などの大都市になると、ヒートアイランド現象により都市特有の風系ができ、大気汚染物質が特定地域に吹き寄せられ、高濃度の汚染が現われたり、スギ花粉が吹き寄せられるなどの現象が発生します。大学の実習や中学・高等学校の地域調査にも使えるテーマです。これらのことに興味ある方々に本書が何らかの参考になれば幸いです。(本文より)

著者の研究のルーツを辿ると、卒業論文「高知市の都市気候学的研究」(広島大学文学部)に行き当たり、同大学院時代からも継続して故郷の高知のみならず西日本にフィールドを求めて精力的に地道な研究活動を展開している。調査研究の根幹となるフィールドワークを支えてきたユニークな都市気温観測手法が、温度センサーを自家用車の前部に取り付けて機敏に移動するシステムで、時間や研究費に制限のある一市井の研究者が適応可能なオプションである。

本書は三章構成(1. 都市気候の一般的特徴、2. 各都市の気温分布、3. ヒートアイランドの形成要因)で93頁にコンパクトにまとまっている。西日本の地方中小都市(佐賀市、高知市、南国市、土佐市、安芸市)のヒートアイランド問題に焦点を当て、一連の都市気温観測結果を整理・分析したもので、数十年の時間をかけてコツコツとフィールドワークを重ねてきた努力が結晶となって現れている。地球温暖化と対比される都市温暖化=ヒートアイランドは東京や大阪や名古屋などの大都市で大きな都市環境問題としてクローズアップされてきたが、地方中小都市においてもスケール差はあるものの配慮されるべき問題点である。研究のスタイルが自然の現象解明にベースを置き、各都市により気温分布パターンが異なると総括しているため、具体的な中小都市におけるヒートアイランド問題の解決法や課題には踏み込んでいないが、さらにクールアイランドの視点を組み入れて都市熱環境を統合的に評価するプロセスにもチャレンジしていただければ、市井の研究成果が地方自治体の環境政策に繋がる道を切り開くことになると確信している。流域圏研究を支える環境地理分野の柱の一つに育っていくものと期待される。



[リーブル出版 定価(本体1200円+税) ISBN978-4-86338-082-0]

文責: 村上 雅博 (高知工科大学・環境理工学群)